

## 科目別シラバス

### 1. 職務の理解（6時間）

- (1) 多様なサービスの理解
- (2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解

#### 【到達目標・評価基準】

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。

介護職員が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解する。

### 2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

- (1) 人権と尊厳を支える介護
- (2) 自立に向けた介護

#### 【到達目標・評価基準】

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。

介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

### 3. 介護の基本（6時間）

- (1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携
- (2) 介護職の職業倫理
- (3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント
- (4) 介護職の安全

#### 【到達目標・評価の基準】

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。

介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。

介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。

介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。

生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

#### 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

- (1) 介護保険制度
- (2) 医療との連携とリハビリテーション
- (3) 障害者自立支援制度およびその他制度

##### 【到達目標・評価基準】

介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。

介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。

ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。

高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。

医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

#### 5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

- (1) 介護におけるコミュニケーション
- (2) 介護におけるチームのコミュニケーション

##### 【到達目標・評価基準】

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていること

を認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。

家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。

言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。

記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

## 6. 老化の理解（6時間）

(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常

(2) 高齢者と健康

### 【到達目標・評価基準】

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

## 7. 認知症の理解（6時間）

(1) 認知症を取り巻く状況

(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理

(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活

(4) 家族への支援

### 【到達目標・評価の基準】

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。

健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。

認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。

認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認

知症の特徴についても列挙できる。

認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。

認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。

認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。

家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

## 8. 障害の理解（3時間）

(1) 障害の基礎的理解

(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識

(3) 家族の心理、かかわり支援の理解

### 【到達目標・評価基準】

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。

障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

## 9. こころとからだのしくみと生活支援技術（7.5時間）

(1) 介護の基本的な考え方

(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解

(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解

(4) 生活と家事

(5) 快適な居住環境整備と介護

(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(11) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

(12) 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護

(13) 介護過程の基礎的理解

(14) 総合生活支援技術演習

【到達目標・評価基準】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を取得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。

尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。

要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法・留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。

人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。

家事援助の機能と基本原則について列挙できる。

装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる。

10. 振り返り（4時間）

実習（特養とデイサービスの施設見学）

**【到達目標・評価基準】**

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。

※ 筆記試験は、講義・演習・実習修了後、2時間100点満点で実施し、70点以上を合格とする。70点未満の場合、1週間後に再試験を実施し、70点以上を合格とする。

演習時は、講師が演習評価基準に達しているかどうかについて評価する。